



東山小学校だより

令和元年12月24日

※ 町内配付12月25日

教育目標 「心豊かに たくましく 自ら学ぶ 東山の子」

第2学期終業式

先週、体調不良や感染症による出席停止で数名の欠席があり、流行を心配しましたが、本日、全校児童21名が揃って、2学期の終業式を迎えることができました。授業日数は83日…文化祭までは、たくさんの行事で子どもたちの良い姿がたくさん見られ、後半は落ち着いて学習・授業に取り組むことのできた充実した4ヶ月間となりました。保護者、地域の皆様には感謝申し上げます。

終業式の後で、学期末恒例の「山っ子テスト」の表彰を行いました。漢字では6人、計算では5人が全回100点満点の「パーフェクト賞」でした。また成績優秀の「ドリルマスター」では、パーフェクト賞の人を含めて、漢字では17人が、計算では18人が表彰を受けました。

いよいよ明日からは冬休み…子どもたちには、ご家族、親戚そして地域の方とふれ合う時間を大切に、充実した2週間を過ごしてほしいと思います。

学校では12日に行った町内子ども会の際に、冬休みの生活について「東山の子ども 冬休みのくらし」を配付し、右のように指導しました。本日配付の「生活指導だより」にも載せてありますので、ご家庭で今一度ご確認ください。

また今冬季休業では、市当局の指導の下、26日(木)、27日(金)を閉庁日とさせていただきます。両日を含めた年末年始の期間、学校が職員不在となります。ご理解、ご承知おきください。詳しくは10日付「年末年始の期間の学校管理体制について」の文書をご覧ください。

東山の子ども 冬休みのくらし

「規則正しい生活をおくり、安全に気を付けて楽しく過ごそう。」

- 1 安全に気を付けよう。5つの用心＝5用心
「火」 火事ややけどに注意しよう。
「雪」 雪庇や吹きだまり、雪山に注意しよう。
「車」 交通事故に注意しよう。
「金」 お金のトラブルに注意しよう。
「人」 不審者に注意しよう。
- 2 自分の生活リズムをつくり、健康に過ごそう。
- 3 家族や地域とのふれあいを深めよう。
- 4 緊急連絡先を確認しておこう。

「小千谷学童相撲大会」で快挙！

11月30日(土)に総合体育館サブアリーナで「学童相撲」が行われ、我が東山小学校から3年生沙樹さん、4年生愛菜さん・咲生さん、6年生那智さんの計4名の精鋭が出場し、大活躍しました。

結果は、沙樹さんと那智さんが、それぞれ「学年の部」で2位入賞。そして、今年始めてエントリーした「女子団体の部」で東山小学校チームが2位の栄光に輝きました。1チーム7人編成に4人で挑むので、必ず3つの不戦敗が付く、かなり不利な状況かと思ったら、大半のチームが7人が揃っているわけではなく、不戦勝と不戦敗のある中で効率よく勝ち星を上げて、勝ち進みました。組み合わせの妙という向きもありますが、勝ち勝ち！勝負の世界はそういうものです。私は所用があって開会式しか出られなかったのですが、監督や応援に行っていた先生方から、4人の頑張りを聞きました。個人戦もちろんですが、団体戦の入賞はスゴイ！と思いました。



二つのご講話から…

「ルールとペナルティー」 小千谷総合病院 小児科医 仁田原康利 先生

10月30日(水)に、東中校区の学校保健委員会で仁田原康利先生から「メディアと子どもの健康」について講話をしていただきました。今やインターネットを中心としたメディアは人々の生活と切り離せないものになっている。そしてゲームの依存性の強さも指摘されている。そんな中でメディアコントロールをするには、ルールとペナルティーがなくてはならない。というのがお話の核心であったと思います。

仁田原先生はスポーツに例えて「ルールがあっても審判が笛を吹かなければ試合は荒れる」と教えてくださいました。よく「親子でルールを作りましょう」ということが言われます。しかし、守るべきルールだけでなく、守られなかった場合のペナルティーが含まれたルールでなくてはならないということです。さらに、そのペナルティーが確実に遂行されなければ、ルールそのものが崩壊してしまうということです。

言われてみれば当たり前のことですが、妙に納得してしまいました。一方で実際に我が子にペナルティを与えることの難しさは、一人の親として痛感しているところでもありますが、仁田原先生のお言葉を借りれば、「心を鬼にして…」とのこと。メディアコントロールがうまくいっていないというご家庭では、以下を参考にして冬休み中にルールを見直していただけたらと思います。

- ① (ペナルティを含む)ルールを子どもに自分で決めさせ、保護者が承認する。
- ② ご夫婦、ご家族でルールを共有する。
- ③ 家庭内で親が審判となり、ルールが守られなかった場合は、しっかりペナルティを課す。

※ご講話の内容は、11月12日付で発出された「東小千谷中学校区学校保健委員会開催報告」に詳しく載っていますので、ぜひご確認ください。

「当たり前のことを当たり前に…」 バルセロナ五輪金メダリスト 柔道家 古賀稔彦 氏

今年の市P連の研究大会の講話でした。実は以前にも…バルセロナで金メダルを獲った翌年に、柔道大会のイベントでお話を聞いたことがありました。しかし、当時古賀さんは現役だったので、挨拶がてらのお話と中学生への技術指導が中心でした。今回は指導者としてのお話が聞けるのを楽しみに参加しました。

講話の序盤に「天才と言われるスポーツ選手」の話から、古賀さんは「天が与えた才能が天才と言うならば、その才能は誰もが無限に持っているもので、誰もが天才の素質を持っている」と考えているそうです。だからこそ「自ら望んでする努力」が大切。望む努力はたとえ結果につながらなくても、必ずプラスに働き、努力した分だけチャンスを得ることができる。チャンスとは周囲の人の期待。その期待に感謝し、期待してくれる人のためにこそ、人は力が発揮できるそうです。古賀さんは現在、「古賀塾」という道場を開いているそうですが、現場に入る前に「心の器を大きく持つこと」と「人は変わるということ」を心に留めて臨むそうです。だからこそ塾生を丸ごと受け入れることができるし、指導に関して自分自身が無限の努力を重ねることができるのだそうです。

嘉納治五郎の「精力善用・自他共栄」を引いて、古賀塾では週一回奉仕活動を行っていること、そして「塾五訓」を紹介してくださいました。一、「はい」という素直な心 二、「ありがとうございます」という感謝の心 三、「わたしがします」という奉仕の心 四、「すみません」という反省の心 五、「おかげさま」という謙虚な心 …この五つの言葉はどれも日常生活上の当たり前の言葉だが、自分の言葉として、自分の心が入らなければ意味を成さない。心が入ればあいさつ一つで「応援される存在」になることもできる。「当たり前のことが当たり前のようにできること」は実は難しいことだが、これこそが一番大切なこと…たとえば、「あいさつ」「ゴミをひろうこと」「トイレのスリッパを揃えること(自分が履いたのだけでなく)」…目の前に落ちているゴミを掴めない(拾えない)者に、自分の夢など掴めるはずがない。ということでした。

最後に、会場の親御さんへ…子どもと接する心構えとして「ダメなところは親のDNA、良いところは子どもの努力」という言葉をくださいました。

あっという間の90分間の講話でした。ここに書いたことの他にも、盛りだくさんの良いお話を聞くことができたのですが、うまくまとめられず残念です。ただ、こうして見ると、決して特別なお話ではなかったしれません。しかし、さすが世界を相手に戦ってきた古賀選手の言葉には重みがあったなあと感じます。